



タケダの血漿分画製剤事業（Plasma-Derived Therapies）



武田薬品工業株式会社

プラズマデライブド セラピーズ ビジネスユニット 日本ビジネスオペレーションズリード

後藤 智子

2019年7月12日

Better Health, Brighter Future

IMAGES COURTESY OF PLASMA PROTEIN THERAPEUTICS ASSOCIATION

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分、提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社（we, us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」「することができた（could）」、「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではないです。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表すものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容は、大きく異なる可能性があります。当社の業績、経営結果又は財務状況に影響を与える事項の詳細に関しては、米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新のアニユアルレポートや関連書類の「第3項重要事項 - D. リスクファクター」をご参照ください（<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/> 又は www.sec.gov において閲覧可能です。）。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいとすることを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

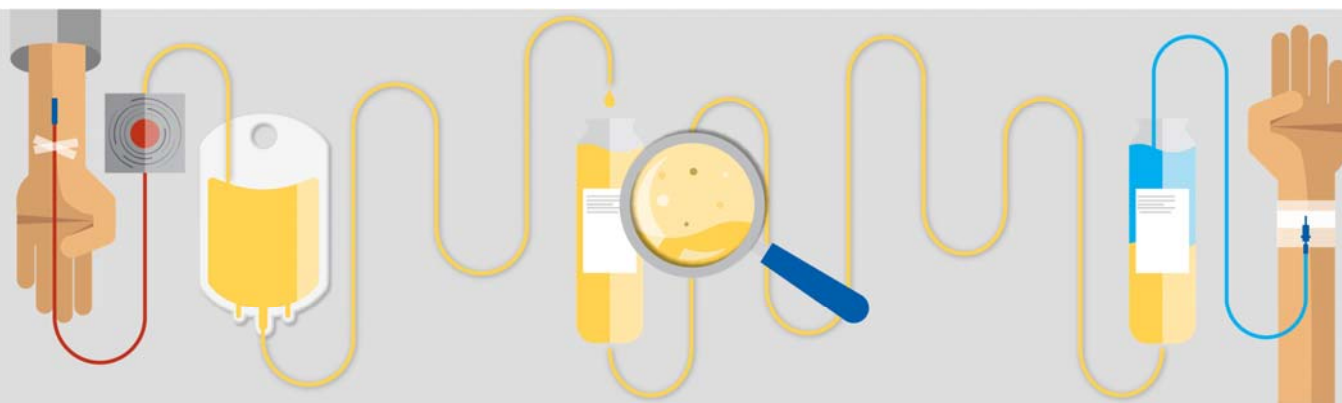
医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

財務情報

当社の財務諸表は、IFRS（国際会計基準）に基づき作成しております。シャイアー社の財務諸表は米国会計基準に基づき作成されております。従いまして、両社の財務情報は直接的に比較検討可能なものではありません。シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

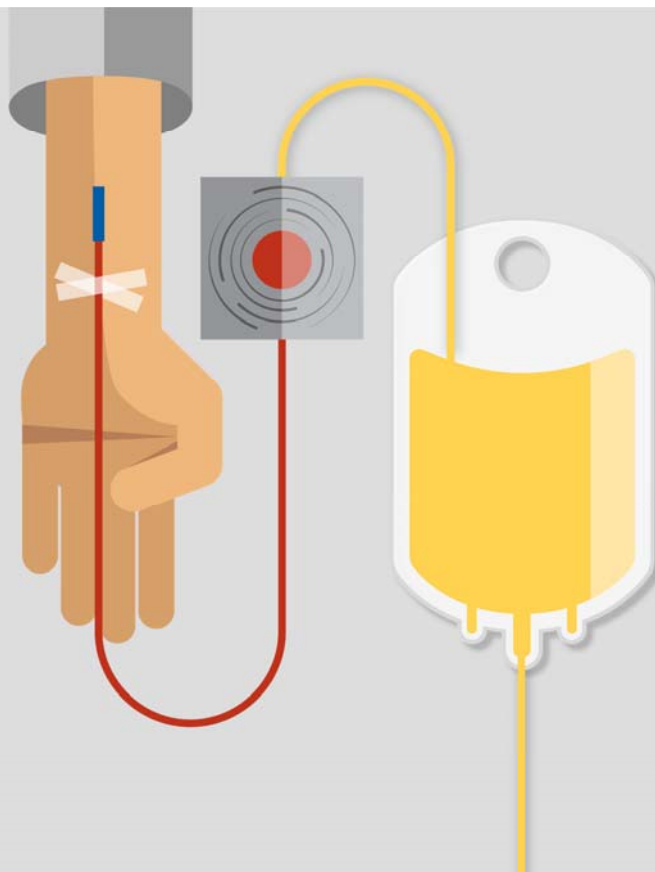
アジェンダ



- 1
血漿分画製剤
(PDT: Plasma-Derived Therapies)
とは？
- 2
PDTのマーケット
- 3
タケダの
PDTビジネス

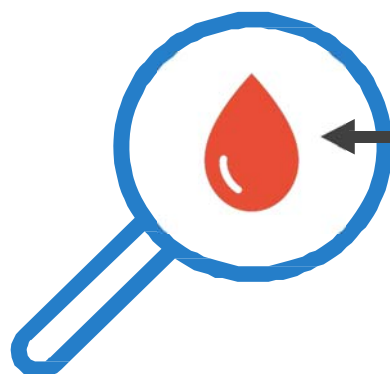
2

1 血漿分画製剤 (PDT: Plasma-Derived Therapies) とは？



3

「血漿」とは



血液の成分

55%

血漿

44%

赤血球

1%

白血球、
血小板

「血漿」の定義:

血漿とは、**血液から赤血球、白血球、血小板を除いた透明の薄黄色の液体成分**です。
血漿分画製剤は、血漿に含まれている医学的に有用なタンパクを分離・精製して製造しますが、原料となる血漿は人工的に生成することはできません。

Source: B Positive Plasma website https://www.bpositivetoday.com/#lightbox/gallery_image_1/0

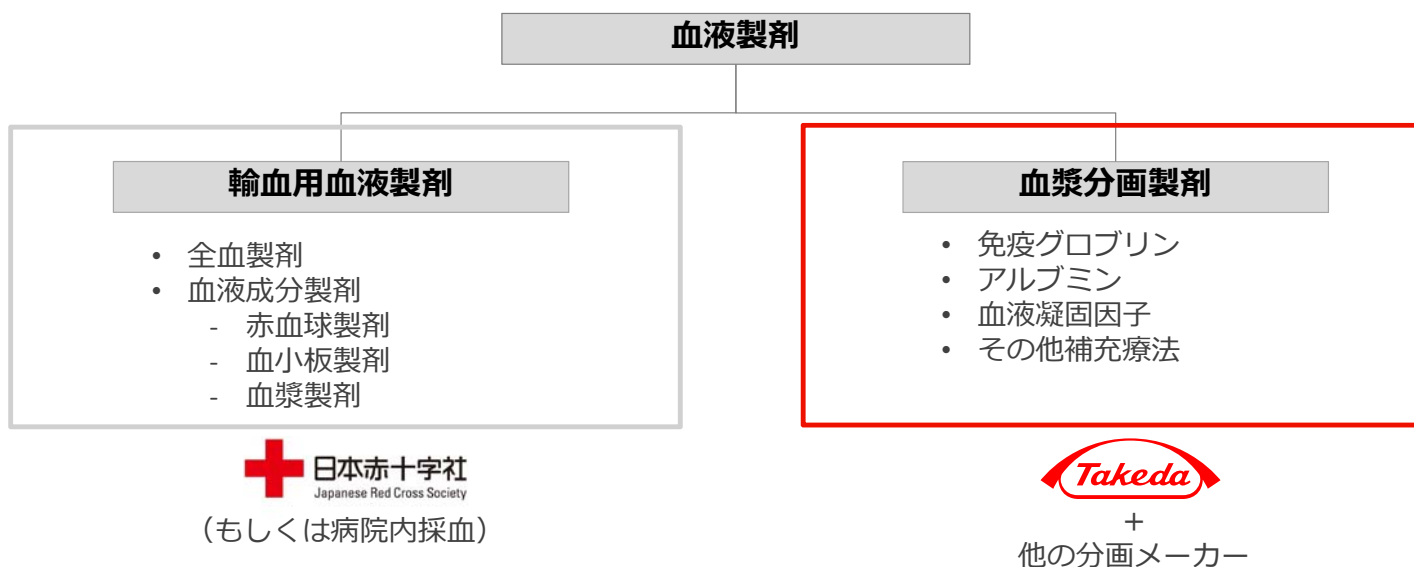
4



Takeda Pharmaceutical Company Limited

血液製剤とは、血漿分画製剤とは

日本での血液製剤市場



Source: 厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課 「平成30年度血液事業報告」

5



Takeda Pharmaceutical Company Limited

血漿分画製剤は4つの用途で様々な疾患に使用されている

概要

用途



免疫グロブリン (IG)

- 体内に入った異物（抗原）を排除するなど働きをする
- 液性免疫システムで主要な役割を果たす

- IVIG/SCIG** – 先天的な免疫不全、神経症、感染症など200種類以上の病気の治療で使用
- 特殊免疫製剤** – 特定の抗体を多く含む免疫グロブリン製剤



アルブミン

- 血管内の浸透圧を維持する
- スターチや乳酸リンゲル、生理食塩水など、非タンパク由来の輸液と競合することがある

- アルブミン** – 体液喪失、出血性ショック、凝固因子の補充を必要としない治療的血漿交換療法、熱傷、腎透析



血液凝固因子

- 血液凝固力スケードを正常に機能させるための血液凝固因子の欠損や活性低下を補う

- 第VIII因子/第IX因子** – 血友病A/B
- vWF** – フォンヴィレブランド病
- 第II, V, VII, X, XI, XIII因子、フィブリノーゲン** – 先天的な欠損症あるいは失血による出血傾向



その他
補充療法

- さまざまタンパクが希少疾患の治療に使用されている

- AT-III** – 先天的血栓形成傾向
- AAT/A1PI** – COPD、肝硬変、黄疸
- C1-INH** – 遺伝性血管性浮腫

注: 適応症は国によって異なります

IVIG: 静注免疫グロブリン, SCIG: 皮下注免疫グロブリン, AT-III: アンチスロンビンIII, AAT/A1PI: α-1アンチトリプシン/α-1プロテイナーゼ阻害剤, COPD: 慢性閉塞性肺疾患, C1-INH: C-1インアクチベーター

Source: PPTA (Plasma Protein Therapeutics Association)

6



Takeda Pharmaceutical Company Limited

1人の患者さん1年間の治療には最大1,000人以上の献血が必要になる一方、血漿分画製剤以外に代替治療がない疾患も多い

1人の患者さんが1年間、
治療をするのに必要な献血者

PDTの代替製剤一覧

130: 1人 原発性免疫不全症
(低または無ガンマグロブリン血症)

900: 1人 α1 アンチトリプシン欠乏症

1,200: 1人 血友病

免疫グロブリン	なし
アルブミン	遺伝子組み換えアルブミン*
FVIII/FIX/FXIII	遺伝子組み換えFVIII/FIX, バイスペシフィック抗体
バイパス製剤	遺伝子組み換え FVII, バイスペシフィック抗体
アンチスロンビンIII	遺伝子組み換えアンチスロンビン III
プロスロンビン	なし
C1 インアクチベーター	イカチバント
プロテイン C	なし
フィブリン	なし

*: 日本では遺伝子組み換え型アルブミン製剤は承認のみされている

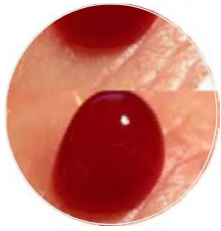
Source: PPTA (Plasma Protein Therapeutics Association), MHLW

7



Takeda Pharmaceutical Company Limited

血漿は全血献血、あるいは血漿成分献血から採取される



「Recovered plasma」（全血由来）

- 全血を採血したあと、血漿成分を分離する
- 全血献血は通常、血漿成分献血とは別の法規制が適応されることが多い：
 - － 一般的に**報酬はなし**
 - － 血球成分の回復に時間がかかるため、血漿成分献血よりも採血できる**頻度が少ない**
- 世界の原料血漿の**～16%**、日本の原料血漿の**～75%**を占める



「Source plasma」（血漿成分献血由来）

- 血漿成分献血では、**血漿成分のみが採取され、血球成分はドナーの体内に戻される**
- 血漿成分献血における**ドナーへの報酬**は一部の国で認められている（アメリカ、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ等）
- 民間の血漿採血センターは**分画メーカー**または血漿を分画メーカーに販売する**第三者機関**によって運用されている
- 世界の原料血漿の**～84%**、日本の原料血漿の**～25%**を占める

Source: MRB, 日本赤十字社ウェブサイト、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課 「平成30年度血液事業報告」
8

 Takeda Pharmaceutical Company Limited

血漿の収集に関する法規制は国によって異なる

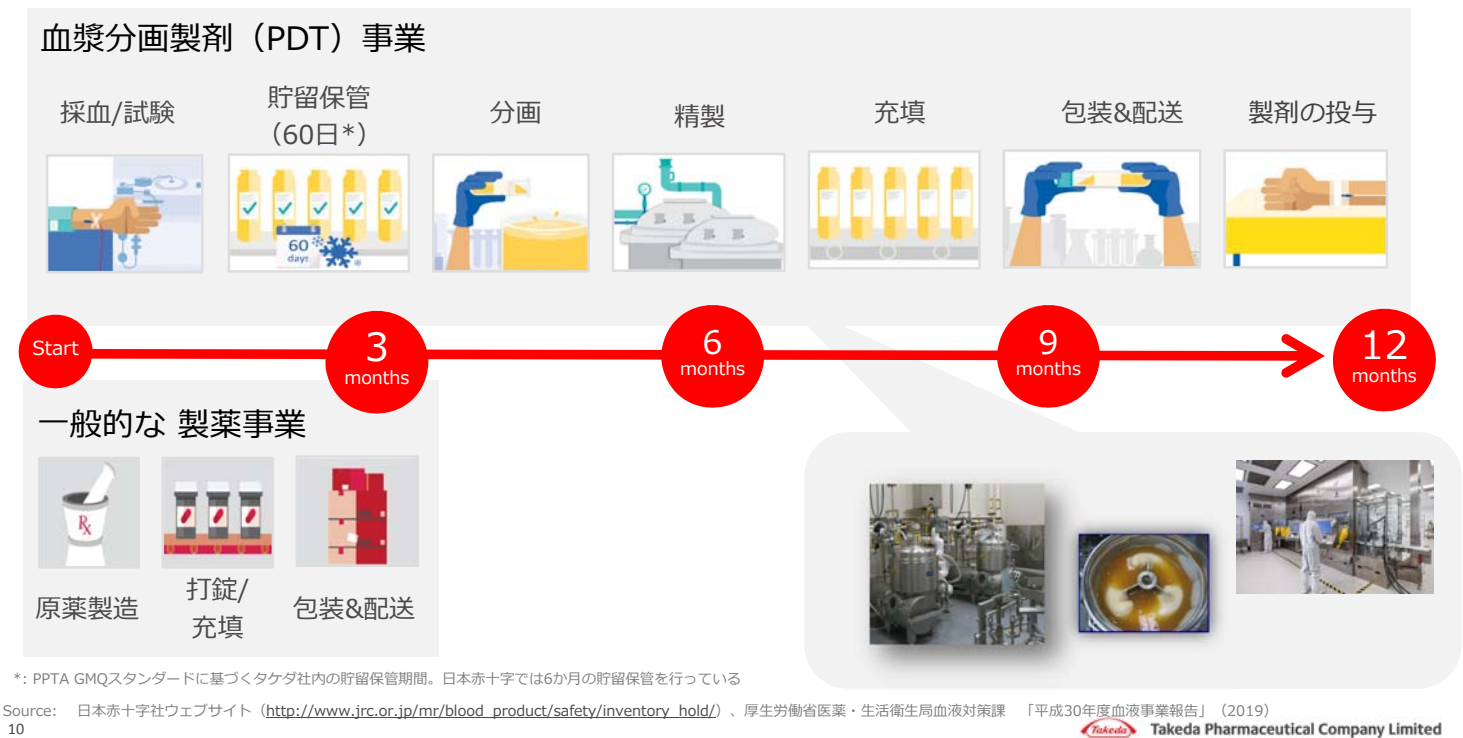
	アメリカ	オーストリア	日本
規制当局・法規制	FDA Blood Safety Law	EMA Blood Donor Decree	厚生労働省 血液法
血漿採血者	民間および公的機関	民間および公的機関	日本赤十字のみ
採血量	一回当たり690 - 880 mL (体重により上限が異なる)	一回当たり600-850 mL (体重により上限が異なる)	一回当たり 600 mL以下 (循環血液量の12%以内)
年齢	18歳以上	18歳以上	18歳～ 69歳
体重	110 lbs (≒ 50 kg) 以上	50kg 以上	男性: 45kg 以上 女性: 40kg 以上
血漿成分献血の間隔	前回の献血から48 時間以上 7日間に2回まで	前回の献血から72 時間以上 7日間に2回、14日間に3回、年間 50回まで	2週間後の同じ曜日から献血可能 年間24回まで

アメリカ、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ等の国では血漿成分献血者への報酬が認められているが、献血可能な頻度、年間献血回数、採取する血漿量などは国により異なる

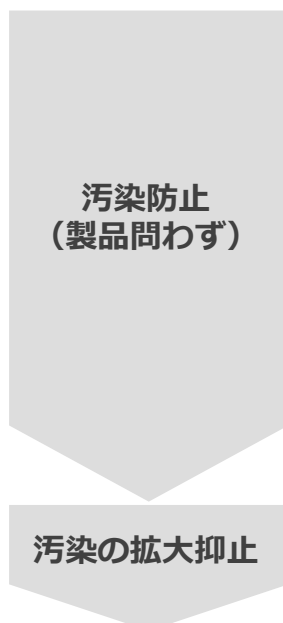
Source: 日本赤十字社ウェブサイト、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課 「平成30年度血液事業報告」
9

 Takeda Pharmaceutical Company Limited

血漿分画製剤は製品が完成するまでに12か月近くかかる



患者さんとドナーのために、タケダは安全対策・管理を徹底



ドナーへの対応

- 採血所の安全対策徹底（当局から採血業の認可を取得し、定期点検を実施している採血所）
- ドナー登録・認定プログラム（ハイリスクドナーを特定するための問診の実施）

血漿への対応

- 血清学的検査（HBs抗原、HBc抗体、HIV-1/2抗体等）
- 貯留在庫および遡及調査
- 核酸増幅（NAT）試験（HIV, HBV, HCV, HAV, Parvo B19等）

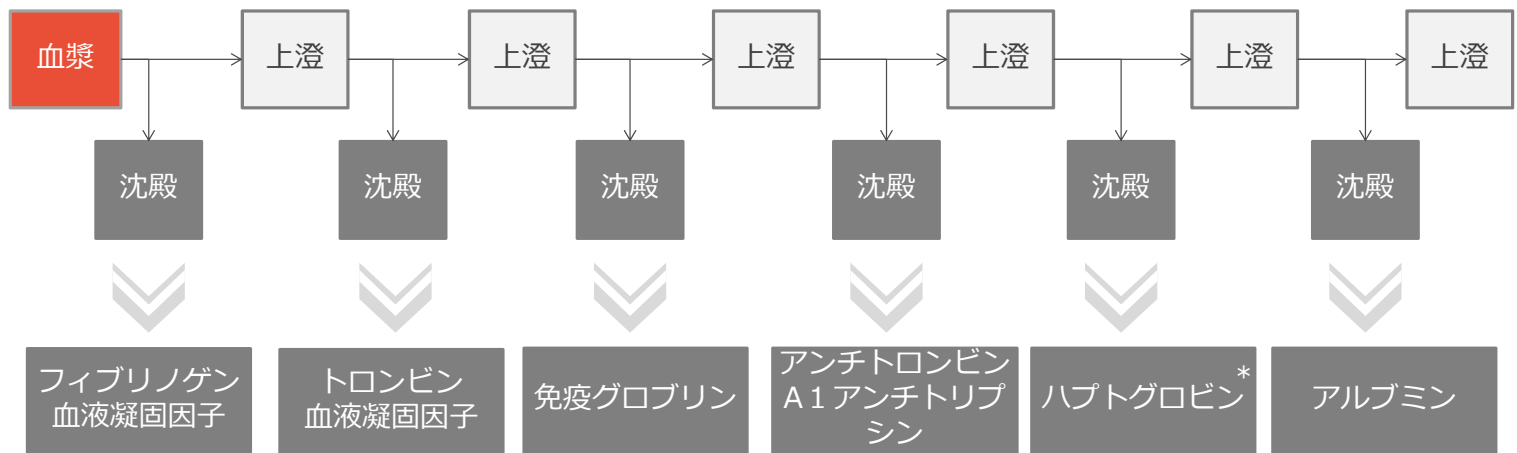
製造での対応

- ウイルス除去 / 不活化

製品市販後

- 医薬品安全性監視（ファーマコビジランス）

血漿分画の過程で血漿内の有効な成分を分離し、製剤化

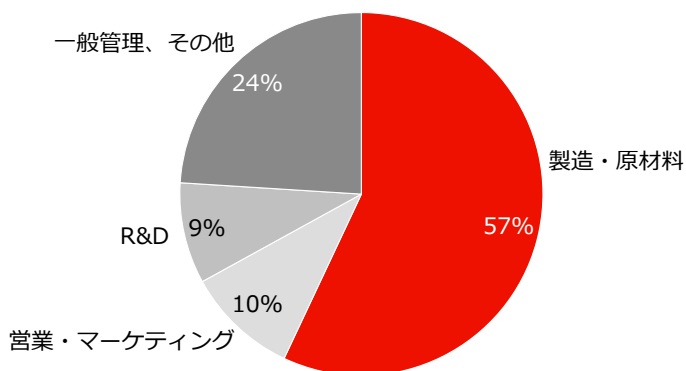


*: 当社は製造していない

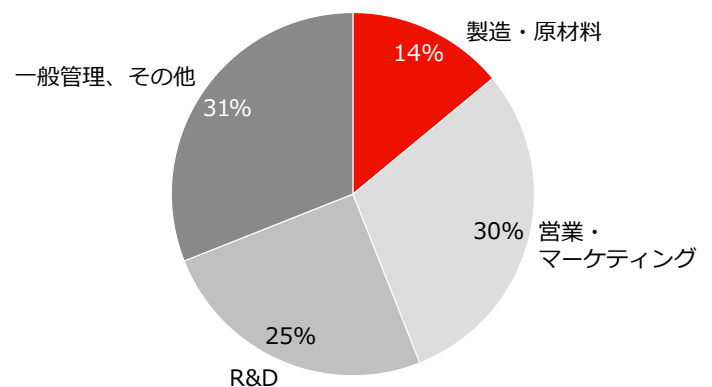
原料血漿の採血・試験や複雑な分画プロセスなどにより、PDT事業では売上原価比率が大きい

業界指標であり、タケダの数値ではない

PDT事業の平均的コスト構造

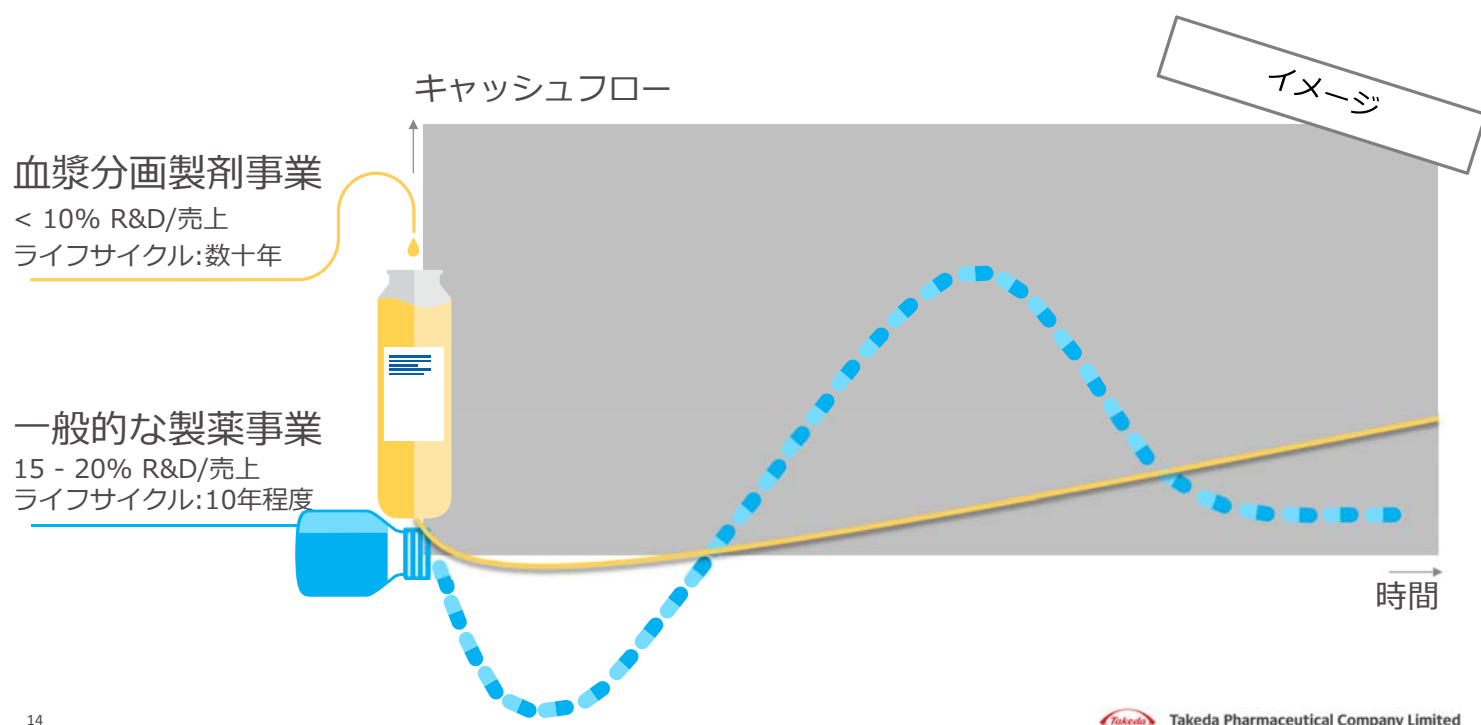


PDT以外の製薬での平均的コスト構造

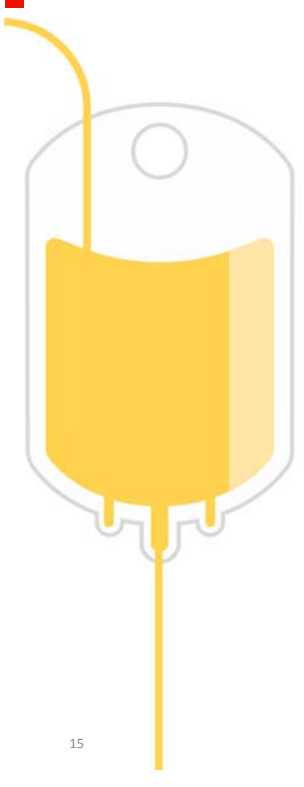


Source: Industry Reports & Estimation 2011, S&P Capital IQ

PDT事業において、売上高に占める研究開発費の割合は低く、一般的にジェネリック製品の参入リスクがない



PDT事業は一般的な製薬事業とは異なる

- 
- 原料となる血漿が**ドナーの献血** からしか確保できない
 - **1人の患者さん**の1年分の治療に**1,000人以上の献血**が必要になる
 - 血漿の採血は厳重に**法令などで規制**されている
 - 血漿献血は**センシティブ**なトピックである
 - **資本集約型**の事業である
 - 製造に必要な**タイムライン**が長く、**原材料費**が大きい
 - **血漿の連産構造**を考慮する必要がある
 - 血漿分画製品には**ジェネリック医薬品の参入リスクはない**

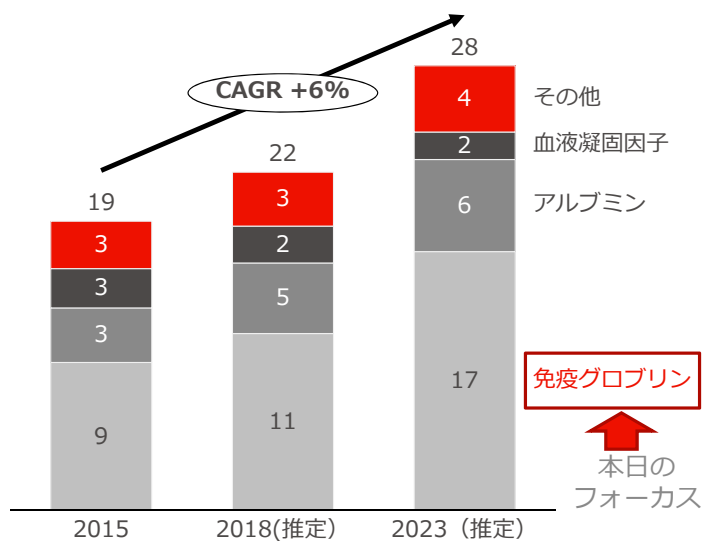
PDTのマーケット



16

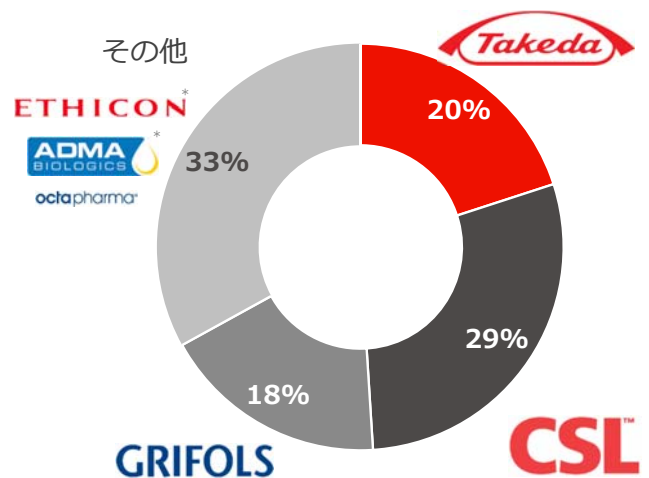
血漿分画製剤（PDT）市場の成長は免疫グロブリン（IG）がけん引、タケダは世界トップ3の一角を占める

世界の血漿分画製剤（PDT）市場（B \$）, 2015-23



Source: MRB, Evaluate Pharma, PDT Analysis

世界の売上高PDT市場シェア（2018）

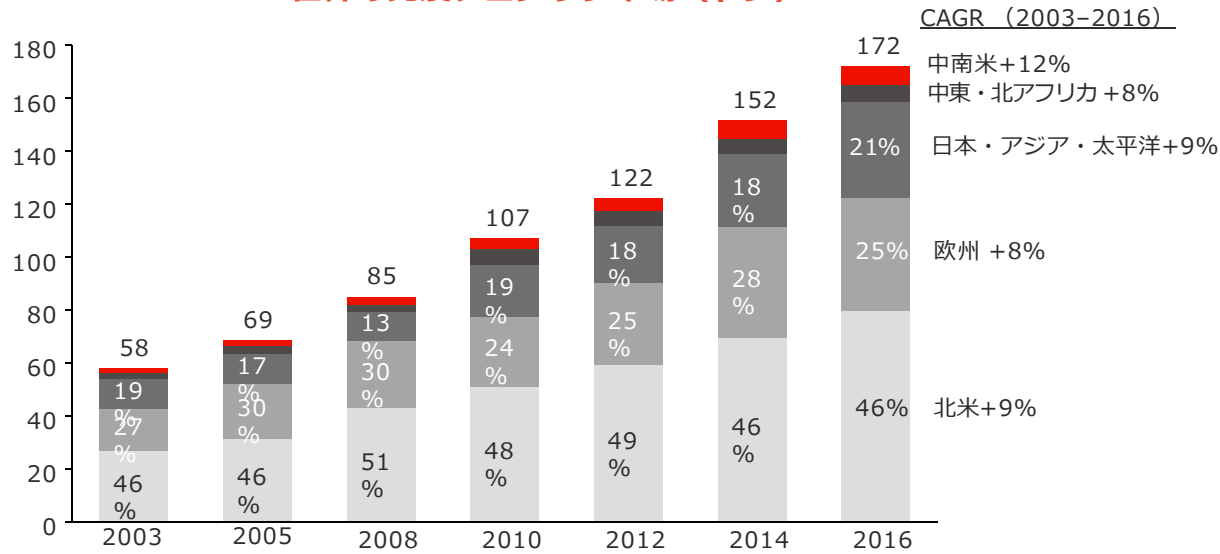


*: その他企業の一例であり、すべてをカバーしているわけではない

Source: MRB, Evaluate Pharma, PDT Analysis

免疫グロブリン（IG）の需要は世界的に増加している

世界の免疫グロブリン市場（トン）



成長ドライバー

- 治療水準の向上
- 診断率や疾患に関する認知度の向上
- 免疫グロブリンの適応範囲拡大

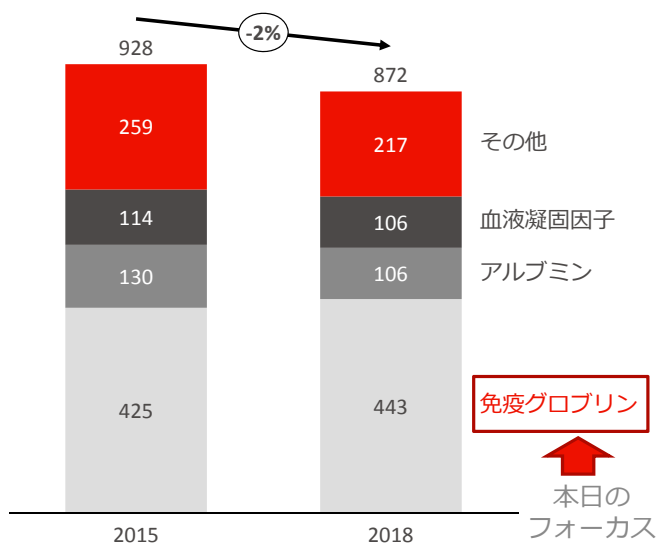
増加し続ける需要に対し、いかに供給を確保するかが業界全体の課題

SOURCE: MRB_WW_History 2016, Internal estimates; EAMEA = Eurasia, MEA

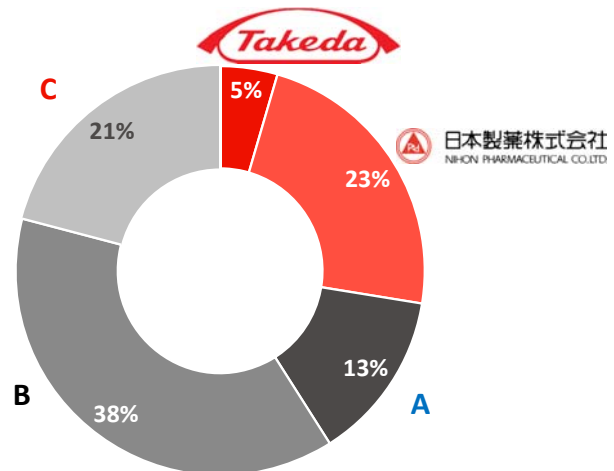
18

日本においてPDT市場全体は金額ベースで減少しているものの、免疫グロブリン（IG）市場は堅調に推移

日本のPDT市場（百万ドル）, 2015-18



日本の売上高PDTシェア



注: 製剤分類は武田薬品工業の区分に基づく。また、遺伝子組み換え製剤は除く。(2018年4月~2019年3月) 平均レート、1ドル=111円で換算

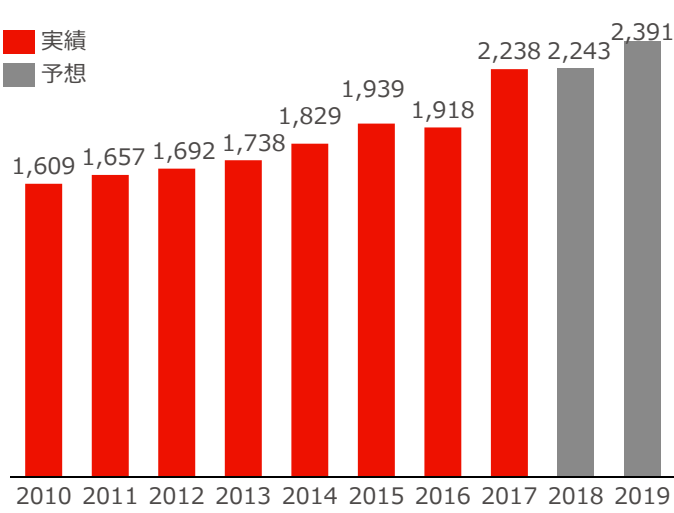
Copyright © 2019 IQVIA. (Calculated based on JPM Jan - Dec 2013 and Jan - Dec 2018.) Reprinted with permission.

Copyright © 2019 IQVIA. Calculated based on JPM Jan - Dec 2013 and Jan - Dec 2018. Reprinted with permission.

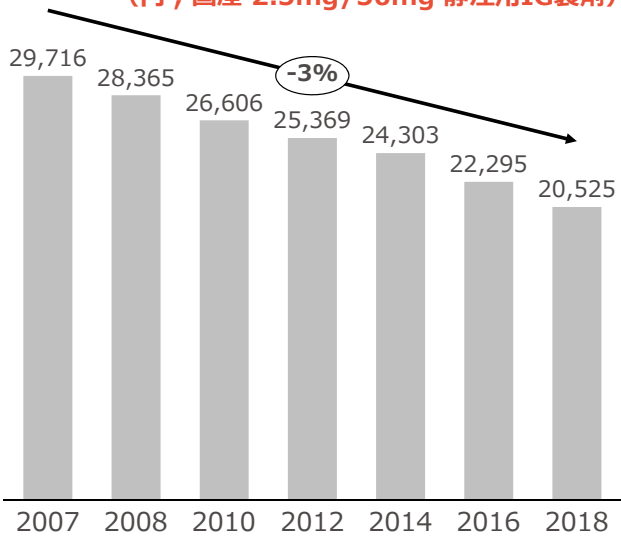
19

日本でも免疫グロブリン（IG）の需要は堅調だが、
薬価は2007年から30%近く低下している

日本のIG市場（1000本 2.5mg ボトル換算）



日本の IG製剤 薬価
(円；国産 2.5mg/50mg 静注用IG製剤)



注： 2018 data is annualized with April-September actual data
Source: MHLW "Building a Plan for Stable Supply of Blood Products in 2019"「平成31年度の血液製剤の安定供給に関する計画の策定について」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000452750.pdf>)、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課「平成30年度血液事業報告」(2019)

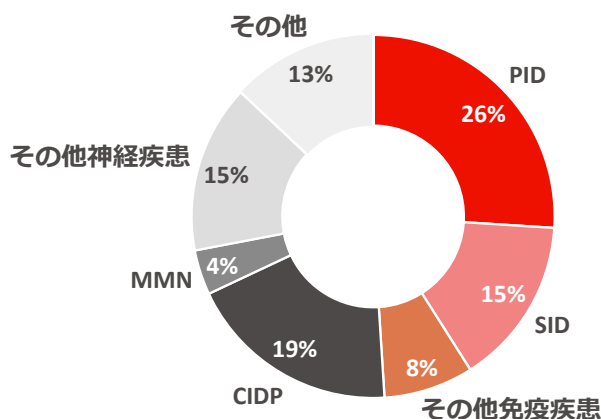
免疫グロブリンの用途は幅広く、日本でも世界でも
適応症が拡大傾向にある

適応症	原発性免疫不全症 (PID)	慢性炎症性脱髄性多根神経炎 (CIDP)	多巣性運動ニューロパチー (MMN)	その他（続発性免疫不全症(SID)、川崎病、重症感染症、MG、GBS 等）
疾患領域	希少免疫性疾患	神経領域	神経領域	様々
主な診療科	小児科 免疫科	神経内科	神経内科	様々
患者さんの年齢層	全年齢層	中高年	中高年	全年齢層
2017年 対前年成長率 (数量ベース)	9%	9%	17%	6%

MG:重症筋無力症, GBS: ギランバレー症候群
注: 適応症は国・地域によって異なる。各国における適応症については、それぞれの国での添付文書をご参照下さい。

欧米ではPID、SID、CIDPで免疫グロブリン（IG）使用の60%を占める

US／EU 領域別IG市場, 2018年予想



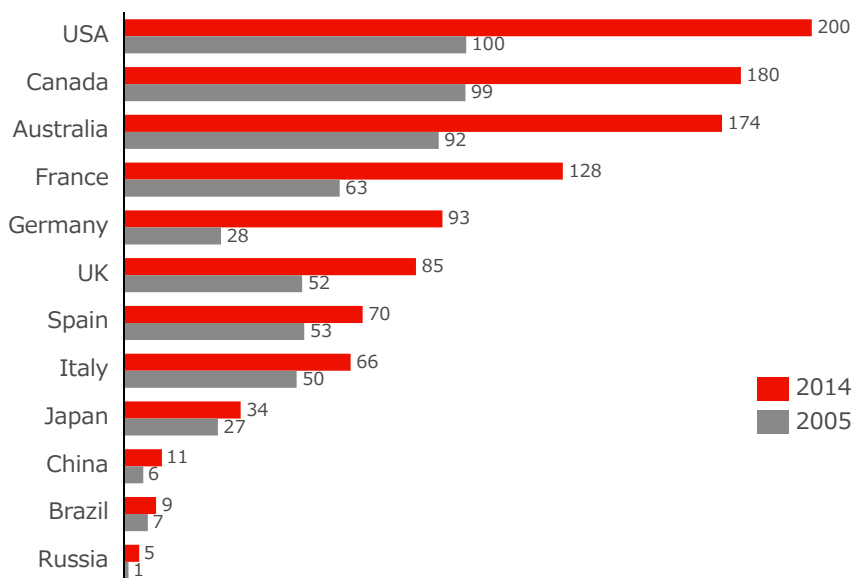
PID: 原発性免疫不全症; SID: 続発性免疫不全症; MMN: 多発性運動ニューロパチー; CIDP: 慢性炎症性脱髄性
Source: 2016 WW MRB Report, 2017 US MRB Report, & Internal estimates

22

日本での免疫グロブリン（IG）使用量は欧米と比べて少なく、その伸び率も低い

国別免疫グロブリン使用量
(Kg / 100万人)

国による違いの背景



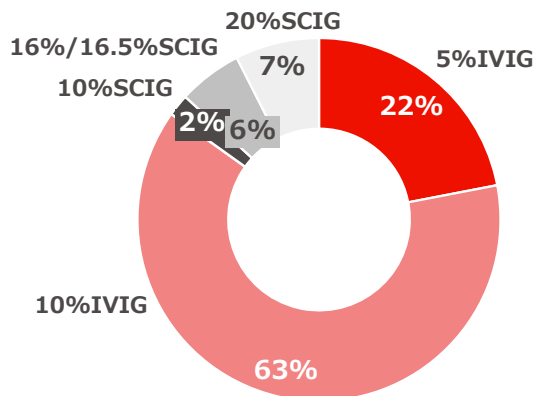
- 発売されている製品の種類や製品が発売された時期
- 診断率と疾患に関する認知度
- 薬価
- 患者団体の活動
- 市場構造や購入プロセス
- 医学教育の内容
- 免疫グロブリンの対象疾患（適応症の違い、適応外使用の可否）

Source: Plasma Protein Therapeutics Association; https://www.cslproducts.com/safety/binary/pdf/professional_interview_no3.pdf

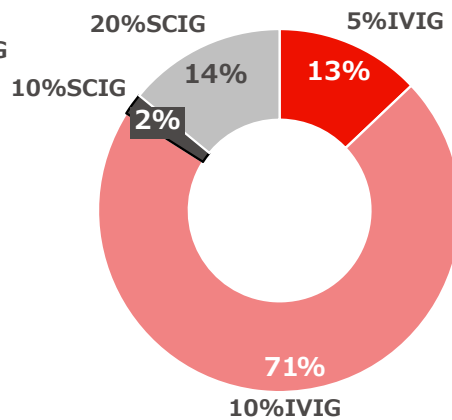
23

免疫グロブリン（IG）において、欧米では10%製剤が主流だが、日本ではまだ5%製剤が使用されている

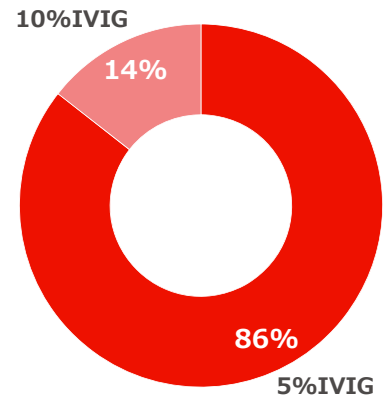
欧州 IG 市場, 2017



アメリカ IG 市場, 2017



日本 IVIG 市場*, 2018



*: 日本でのSC製剤シェアは欧米に比べて限定的

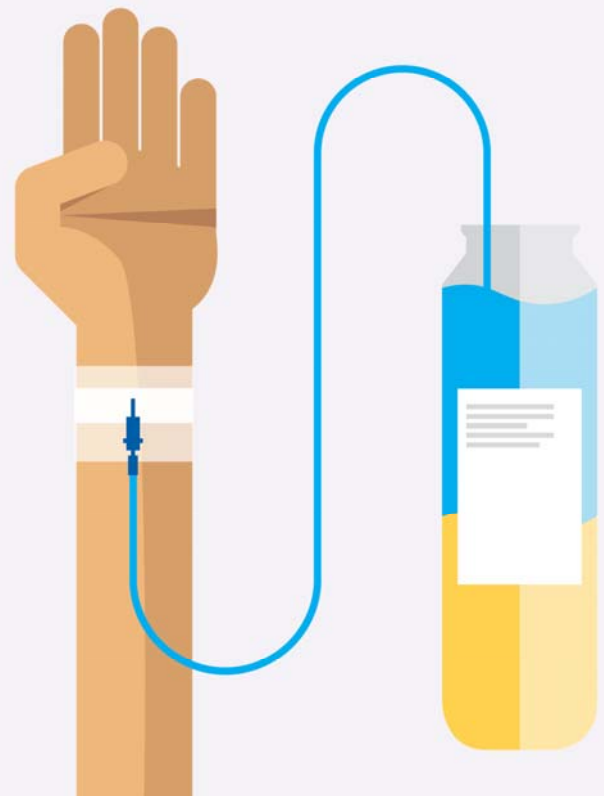
日本では、10%製剤や皮下注製剤の発売が欧米に比べて遅く、発売されている製剤数も少ないことから、いまだに5%IVIGが主流であると考えられる

IVIG: 静注免疫グロブリン, SCIG: 皮下注免疫グロブリン

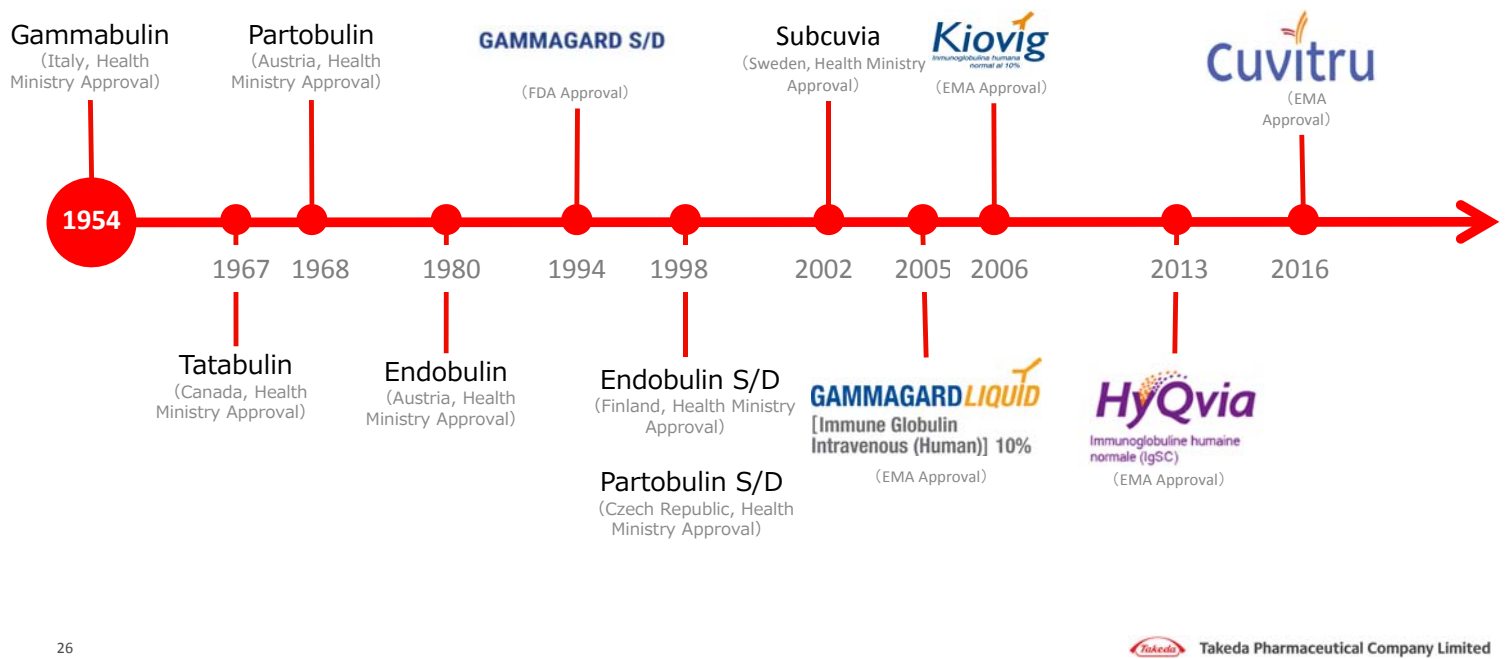
24 NOTE: The category of product type is based on Takeda internal standards.
Source: Copyright © 2019 IQVIA. (Calculated based on JPM Jan-Dec 2018.) Reprinted with permission The U.S. and EU data is based on Takeda internal analysis based on LoC's self report.

3

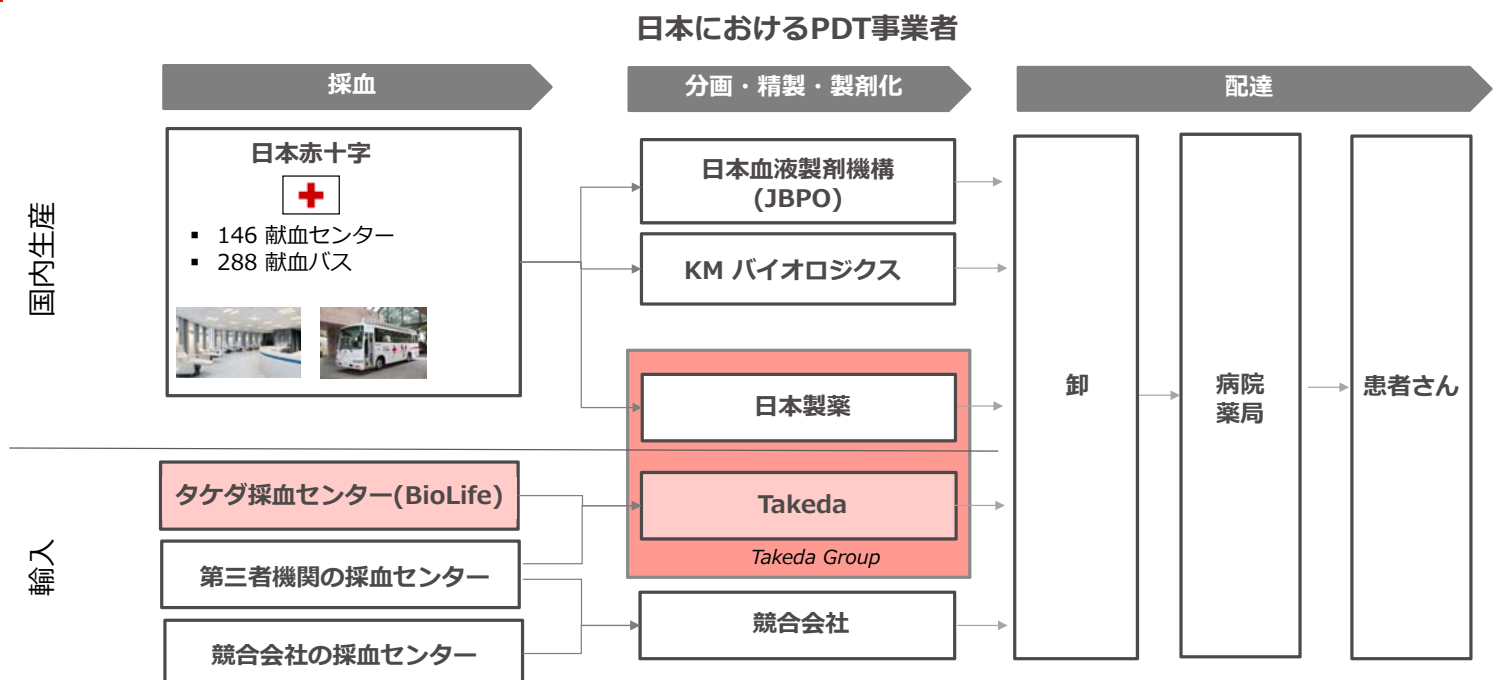
タケダの
PDTビジネス



タケダは60年以上の長きにわたり、PDT事業に貢献してきた



タケダは国内市場用として、国内外の血漿にアクセスを持つ



Source: MHLW (2017) Blood Business Report (血液事業報告平成29年度); JRC (2018) Blood Business Plan. <http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/2018jigyokeikaku.pdf>

タケダは原料血漿の確保のために、グローバルに投資を拡大

タケダの血漿採血活動

105
アメリカ（27の州）で
の自社採血センター



30
欧州での
自社採血センター



3
スクリーニング試験場



製造： コビントン製造工場の稼働

- 2019年3月にFLEXBUMINの製造について、FDAより承認取得
- 免疫グロブリン製品群とアルブミン製剤を中心に量産を開始し、今後数年間で完全稼働を目指すとともに、100万平方フィートを超える工場では需要と供給のギャップを縮小するためにさらなる拡張の機会を検討
- 追加で内部の製造能力の拡張を検討中

原料血漿供給のパートナー

5つのアメリカ供給パートナー

~50 箇所



~50 のEU供給 パート
ナー
~130 箇所
7 カ国



供給： 血漿収集に対する投資

Shire社買収完了後、追加で10施設の血漿収集センターを獲得

- 米国メリーランド州に1施設
- オーストリアに2施設
- ハンガリーに7施設

現在、米国で105のセンター、米国外で30のセンターを保有

今後も投資を継続し、毎年2桁のセンター数の増加を目指しながら拠点を広げる予定

タケダは最新鋭の血漿分画製剤の製造ネットワークを持ち、今後も生産能力向上のために継続して投資

血漿分画・精製



Los Angeles, USA



Rieti, Italy



Vienna, Austria



Sanquin, NL*



Covington, USA

製剤化



Lessines, Belgium



Covington, USA

グローバル供給網



*: タケダのパートナー企業が運営

PDTにおいてタケダは多彩な製品ポートフォリオを持つ

	適応／主要用途	グローバルの製品群	日本での発売品
免疫グロブリン	原発性免疫不全症 (PID)、突発性血小板減少性紫斑病 (ITP)、続発性免疫不全症 (SID) など		
アルブミン	体液喪失、出血性ショック、凝固因子の補充を必要としない治療的血漿交換療法、熱傷、腎透析		
血液凝固因子	- 第VIII/IX因子－血友病 A/B - vWF－フォンヴィレブランド病		(PDT 製品はなし)
バイパス製剤	インヒビター保有の血友病		
α1アンチトリプシン	α1アンチトリプシン欠乏症－慢性閉塞性肺疾患 (COPD)		None
C-1 インアクチベーター	遺伝性血管性浮腫 (HAE) の急性発作治療		(PDT 製品はなし)
プロスロンビン	ビタミンK拮抗薬投与中の患者における急性重篤出血・手術時の出血抑制		None
その他	- プロテインC欠乏症 - 血栓形成傾向の改善など		

30

Takeda Pharmaceutical Company Limited

免疫グロブリン (IG) でも多彩なポートフォリオを保有

	静注 (IV) IG		皮下注 (SC) IG		
	~5%	10%	10% 毎週	20% 毎週	10% 毎月
 日本製薬株式会社 NIHON PHARMACEUTICAL CO., LTD.	 	 	 		
	✓	✓ **		✓	
	✓ *	✓ *	✓ *	✓ *	
 一般社団法人 日本血液製剤機構 Japan Blood Products Organization	✓ ***	✓ ***			
 KMBバイオロジクス株式会社	✓ ***				

*: 日本未承認, **: 2019年3月承認、5月薬価収載、***: 日本でのみ承認

31

Takeda Pharmaceutical Company Limited

免疫グロブリンやアルブミン製剤は今後も安定的な成長が見込まれる

成長に貢献する主力成長製品

GAMMAGARD LIQUID
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%
PID, MMN

- 50ヶ国以上で承認取得済み（欧州ではKIOVIG）
- GAMMAGARD LIQUIDについて、PIDおよびMMNの標準治療薬として定評のあるIVIGブランドとしての地位をさらに強固なものとする

Kiovig
Human Normal Immunoglobulin (10%)
PID, SID, 他の免疫性神経疾患

HyQvia
Human Normal Immunoglobulin (10%)
Recombinant Human Hyaluronidase

- HYQVIAは米国、欧州、ラテンアメリカ、中東市場で承認取得済み； CUVITRUは米国、欧州で承認取得済み

CUVITRU
Immune Globulin Subcutaneous (Human) 20%

- 毎月投与のHYQVIA、より頻回投与のCUVITRUのいずれかにより、患者さんと医療従事者の方により柔軟に皮下投与の投与スケジュールを決めて頂くことが可能

PID
SID（欧州）

- HYQVIAのCIDPに対する臨床第3相試験を実施中

Flexbumin
(Human Albumin)

- 40ヶ国以上で承認取得済み

HUMAN ALBUMIN

- 優先市場でのビジネスチャンスを最大化

血液量減少、
低たんぱく血症

- FLEXBUMINの軽量で、密封システム（折りたたみ可能なバッグ）を採用しており、院内感染のリスクを減らし、廃棄物の削減が可能

PID: 原発性免疫不全症; SID: 続発性免疫不全症; MMN: 多発性運動ニューロパチー;
IVIG: 静注免疫グロブリン; CIDP: 慢性炎症性脱髄性多発神経炎

血漿分画由来の希少免疫疾患製品 ポートフォリオの中期的な売上高見通し

~3,700億円
~34億米ドル

FY2018 Revenue
(pro forma)

- その他
- アルブミン
- 免疫グロブリン

さらなる
成長

成長ドライバー
⊕ 主力成長製品の伸長

*1 2018年4月～2019年3月の旧武田薬品および旧Shire社の合計金額（Pro Formaベース）の売上収益を期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル＝111円で換算

Takeda Takeda Pharmaceutical Company Limited

タケダは常に患者さんを第一にPDT事業を行います



1 Patient

患者さんを中心に考えます

2 Trust

社会との信頼関係を築きます

3 Reputation

レピュテーションを向上させます

4 Business

1,2,3を実現したうえで事業を発展させます

まとめ



- PDTビジネスは一般的な製薬事業と**異なるユニークなビジネス**
- PDT市場はIGがけん引する**成長市場**
- タケダは世界**トップ3**のPDTメーカー
- 今後も継続的にPDT製品を患者さんに届けるべく、タケダは**血漿の収集・製造能力を拡張**
- **免疫グロブリン（IG） とアルブミン** がタケダPDT事業の成長ドライバー

